

## 豫算委員會議録 第四回 昭和十五年二月七日

窪井委員 此ノ問題ニ付テハ外務大臣ハ只今考ヘテ居ラナイト言ハレタリデアリマスガ、私ハ此ノ程度ニシテ置キタイト思ヒマス更ニ私ハ此ノ事変處理ヲ解決スル上ニ於テ外務大臣及ビ總理大臣ニ御聽シタイノデアリマスルガ、政府ハ九箇國條約ヲ廢棄スル御考ガアルカドウカ、九箇國條約ト云フモ、ハ、當時日本ハ日英同盟ヲ結ンデ居リマシタ信義ノ上カラシテ歐洲大戰ニ加ツタ所ガ御承知ノ通りニ日本ガ歐洲大戰ニ加ツタ爲ニ東洋ハ平和ニナリ、青島ノ獨軍ヲ討ケ、或ハ地中海ヲ我が海軍ハ進ンタリデアリマスルガ、此ノ戦争ガ有リト同時ニ日英同盟ト云フモノハ英吉利ガ止メテシマツテ、華盛頓ニ於テ日英同盟ガ葬ラレタ、其ノ御葬式ノ一ツノ返禮ト云フヤウナモノガ九箇國條約デアウタラウト思フデアリマスガ、此ノ九箇國條約ハ所謂英米ガ日本ノ大陸政策ヲ牽制セントスル意圖ヲ以テ爲サレタル英米工作デアルマトハ私ガ申上ゲルマデモナイノデアリマス、今ヤ日本ハ支那ト戰爭ニシテ居ツテ、東亞ノ新秩序ヲ建設シテ居ルデアリマスガ、此ノ九箇國條約ト云フハ今後事變處理ノ上ニ於テモ、又今戰爭スル上ニ於テモ、非常ニ邪魔ニナル條約デアアルコトハ申上ケルマデモナイノデス、而シテ此ノ條約ガアル爲ニドレダケ日本ガ外交ニ心配シ、第三國ノ爲ニドレダケ日本ノ外務省ナリ又政府ガ頭ヲ悩マシタカ測リ知レナイ、而モ此ノ九箇國條約國會議が先年「アラツセル」デアリマシタカ開カレシタ時ニ、日本ハ之ヲ認メナイデ、代表ヲ送ツテ居ナイ、



Doc. 3030 B

サウ云フヤウナ態度ニ日本が今日出テ居ルニ而モ是が存在ラシ  
テ居ツテ日本が之ヲ廢棄シナイト云フコトハ、私ハ事変上處理上考  
ヘラレナイノデアリマス、ナセ政府ハ勇氣ヲ出シテ此ノ九箇國條約  
ヲ廢棄シナイノデアルカ、世界ノ情勢ヲ見テ、此ノ條約ノ廢棄ト  
云フモノハ、其ノ事情ニ重大ナル變化カアル場合ヲナケルハ、廢棄  
出来ナイノデアリマスが、今日ハ條約ヲ持ヘタ當時ニ比ベテ見ルト  
支那ト云フ中ニ滿洲國ガ獨立シテ居ルサウニテ日本ハ前古未  
曾有ノ戰争ヲシテ居ル、是程事情ガ變化シタモノハアリマセ又、  
普段ハ手ヤ足ヲ踏ニダトカ言ツテモ外國同士ハ喧嘩ヲスル  
一休戦争ヲ起シテ滿洲國ガ出来タト云フ程、大キキ國際上ノ  
變化ハナイ、東洋ニ於ケル支那ニ於ケル事情ノ變化シラコトハ是  
ヨリ大キナモノハナイノデアリマス、此ノ點ニ於テ政府ハ此ノ國際原則  
ニ照シテ、東亞ニ於ケル重大ナル事情ノ變化ガアルカ、此ノ事情  
變更ノ國際法上ノ原則ニ依リテ、九箇國條約ノ廢棄ノ通告  
ヲナサル決心ガアルカトウカ、又此ノ條約ハ日支事變上處理ノ上  
ニ於テモ、先程申上ケマシタヤウニ、近ク新興ノ中央政權ガ出来ヌ、  
又時ニ於テモ、中央政權ガ第三國ト交渉スル有ル場合ニ於テ、  
非常ニ厄介ノ國際問題ヲ惹起スコトハ申上ケルコトモナイト  
思ヒマス、又現ニ此ノ事變遂行上ハレタケ日本ガ苦ミシカト云  
フコトハ、陸海軍大臣モ御承知通りト思フノデアリマス、  
又外務大臣モ度々此ノ問題ニ付テ如何ニ苦シマレタカ、所謂  
米利心ガ通商條約廢棄ノ通告ヲシタモノモ、恐ラク九箇國  
條約ニ基イテ私ハシタコトヲ思フノチス、斯ウ云フヤウニ事變

No. 2



Doc. 3030 B

ヲ遂行スル上ニ於テ日本ニ非常ニ不利益ナル條約カ而モ日本  
トシテハ之ヲ強シテ認メナイヤウナ條約カ存在シテ居ルト云フコト  
ハ非常ニ不利益ナル此ノ九箇國條約ノ條文ニ照ラシテ見テ  
モ例ヘバ茲ニ近衛聲明カアツテ近衛聲明ノ筋ヲズツト讀  
ミテ見マスルト大体九箇國條約ノ決メテ居ル條項ノ上カラズ  
ニク斯ウ云フヤウニ支那事變ニ対スル日本ノ態度ヲ決メ  
テ居ルヤウニ見エル其ノ精神ハ違フケレドモ日本ノ考ヘ方ハ違フ  
ケレドモ一ツノ條約文カアリマス。隨テ是ハ外務省ナリ外交ニ携  
ハル者ハ其ノ條約文ニ因ハレルデアリマス。精神ハナイト言ツテモ  
現在條約ガアル以上ハ之ニ因ハレルコトハ当然デアリ。テアルカラ私カ一  
寸近衛聲明ヲ讀ミテ見テモ近衛聲明ト九箇國條約  
ノ文書ヨリ比ベテ見ルト尙カカ此ノ九箇國條約ニ違ハレテ文字  
スラクト動イテ居ルヤウナ感ジヲ持ツ。是程厄介ナ條約ニ付  
テ外務大臣ハ此ノ九箇國條約ヲ廢棄スル決意アリヤ否ヤ

〔石坂委員長代理退席委員長著席〕

又更ニ進ミテ考ヘマスナラバ所謂新興中央政權ト云フモノカ  
成立シタ暁ニ此ノ中央政權ト共同シテ廢棄ノ通告ヲ爲ス  
用意アリヤ否ヤ。此ニ點ニ付テ御伺ヒ申上ケマス

○有田國務大臣

九箇國條約ノ或ル條文ハ今日東亞

ニ於ケル事態ニ即シナイモノガアル。即チ所謂古い原則觀念ハ  
今日ノ東亞ノ状態ニ其ノ儘適用スルコトガ出来ナイト云フノハ  
其ノ趣ヒ目デアリマス。併シ之ヲ廢棄スルト云フコトガ一方  
カラ見バ東亞ノ新秩序建設ノ上ニ或ハ時局收拾ノ上ニ便宜デア

No. 3



Doc. 3030B

ルノデアルト云フ見方モアリマスルガ、又反面ニ於テ其ノ廢棄ト云フコトノ及ホス影響ト云フコトモアリ得ルノデアリマシテ、此ノ雙方ヲ比較考慮シテ見ルニ必要モアリマスシ、旁々此ノ箇國條約ノ廢棄ノ問題ニ付キマシテハ、慎重考慮ヲ要スルト考ヘテ居ル次第アリマス、又支那ノ中央政權ノ出末マシタ場合ニ、日本ト新中央政權トカドウ云フ風ニ處置ヲ之ニ付テ取ルカト云フコトニ付キマシテハ、是亦將來問題トシテ其ノ際更ニ慎重考慮スベキモノナト思フノデアリマス

○窪井委員

私ハ此ノ問題ニ付テ陸軍大臣及ビ海軍

大臣ノ御所見ヲ承ツテ見タト思ヒマス

○畑國務大臣

是ハ事カ相当大キウゴサイマスシ、吾々ト致

シマシテハ無論政府ノ方針ニ從フベキモノト思ツテ居リマス

No. 4



Doc. 3030 B

證明書

ワシントン文書局

第 第

號 號

國際檢察部

余山崎高ハ余ガ下記ノ資格ニ於テ即チ衆議院庶務部長トシテ  
日本政府ト公的ノ關係ニ在ルモノナルコト、茲ニ該官吏トシテ余ガ茲  
ニ添附セラレタル 頁ヨリ成ル千九百四〇年ノ昭和十五年ノ  
附、下記題名、即チ

第七十五回帝國議會衆議院豫算委員會議錄(速記)第四回  
昭和十五年二月七日ノ文書ノ保管ニ任ジ居ルコトヲ茲ニ證明ス、

余ハ更ニ添附ノ記録及ビ文書ガ日本政府ノ公文書ナルコト、並ニ  
右ガ下記名稱ノ省又ハ部局ノ公式書類及ビ綴ノ一部ナルコトヲ  
證明ス、(若シライバ綴番號又ハ引用、其他公式書類又ハ綴ニ於  
ケル該文書ノ成規所在ノ公式名稱ヲモ特記スベシ)

千九百四十七年ノ昭和二十二年ノ八月十一日

衆議院ニ於テ署名名

山崎 高



當該官吏署名欄

衆議院庶務部長

右ノ者ノ公的資格

武井 次 男



公式入手ニ關スル證明

余ハ余ガ聯合國最高指揮官總司令部ニ關係アル  
モノナルコト、茲ニ上記題名ノ文書ハ余ガ公務上日本政府ノ上記署名官吏ヨ  
リ入手シタルモノナルコトヲ茲ニ證明ス、

千九百四十七年ノ昭和二十二年ノ八月十四日

Tokyoニ於テ署名名

氏 名 欄

Henry Bolan

右ノ者ノ公的資格

J. P. S. Jnr. Dir.

證 人

J. F. Munnell

No. 5



CHARGE OUT SLIP

Date: 16 Sept 1947

EVIDENTIARY DOC. NO. 3008 also known as 3030-Q

TRIAL BRIEF \_\_\_\_\_

EXHIBIT NO. \_\_\_\_\_

BACKGROUND DOC. NO. \_\_\_\_\_

FILE NO. \_\_\_\_\_

PRESSTRANS \_\_\_\_\_

U.S.S.B.S. \_\_\_\_\_

DEFENSE DOC. NO. \_\_\_\_\_

~~3201~~

Ident. only

In Clerk of Court's office

Signature [Signature]

Room# 377